



武江年表

七

伊地知文庫
文庫20
383
7



文庫20
383
7

武江年表卷之七

伊地知氏書冊



寛政元年己酉

正月廿廿昔政元 六月因

○天明七八年の頃より碑文谷法花もの仁王の諸成就をよみて貴後
 男女系譜なる事あり次乃小群集夥りしが十二年をりよして終る
 きて終る又 ○二月廿七日 ○米穀豊饒あり ○永代も小成田山不動寺
 あり等納物ありあり系譜集以 ○法号を親なる修震 ○五月十九日
 儒師入江北海卒 名貞孫と右法つ 下谷為棟と似舞 ○七月七日祀哥師平杖系化卒 内春宿相州法金右 終つて三市谷法金
 ○七月七日祀方岳世給師徳川春町卒 通称倉橋嘉平と云はれし画作也 多くあり市谷法金と云ふ事也
 ○八月八日大風雨家屋を損深川辺大水 ○八月市谷先徳院あり川口湯杖
 ち地義号開帳 ○角能人谷風槐之助小野川善三郎横綱免許又九段龍

閏六月
十七日
長谷辛
あて
竹生鳥
舟才天
觀世音
開帳

武江三

とつ角力取行る○十月より始り大川筋を新川と新舊流中洲築地
取拂せしむ翌年より元の水面とある○十二月廿日夕より夜一けと再甘
露降○深川寺町法雲院不動尊流石出く新穀の着なり

○本所杉代町本義火除と成り代地深川を指戸田東女正殿は屋敷
の地をとりつる○作佛の開帳年々盛なりと敷くわたりとと寛政より
享和迄のる季々と述せる物せりとい高貴繁華と次編み詳あるべし

寛政二年庚戌

正月廿一日本所杉代町より出火妙村百姓屋迫焼る○三月九日画人劉安
生卒 早秀山森布 曹漢より葬り ○三月十日下谷稲荷社祭礼産子町より出く遷物出
本所の時、産子の法度より本柄流の 警急とせしむると同例に中後中焼せり ○永代寺より京師大佛の内并才と開帳との
る境内見せ物小生程言せ出ればせりれてあふは放てもるを物とて封筒筒

の輩も酒宴の身ふられせ学つる○神本川浦宿と親世青江戸より開帳

八月十日日持野榮川院典信卒 卒 ○八月廿三日前白付貞者

川柳卒 俗説とて方うて後分を傳はり集成柳稿と号し投寄を撰み今ふは流しとふは公の
縁亭川柳五世より及び柳稿の后輯年々不傳仍せり按るる不宣曆の以武出川といつる
能潜の白集ありとせり俗傳を述る川柳もこれよりと愛せりとのとある

九月六日儒師山中天水卒 二十才名如之稱補卒 ○十一月廿七日夜大地震

十月琉球人未聘 正使宣勝 宣勝の男より富士を以て嫁り 宣勝の子

十一月二日夜甘露降 ○漸回同谷成 天雨よりこのく、然名貞推を回蜀山
武江の雜り同谷の書あり

琉球誌刊行 表島中良著 又朝鮮倭由刊行せり ○磁器燒造始る

同 三年辛亥

正月十五日儒師平次旭山卒 平九才名元禮林五郎 徐川法禪子不葬り ○二月十日より五十日の間儀

草寺觀世音開帳 ○市井の法令を改むる傍間の費用を減し後令始る

式正三 天保二

翌年六月新橋折本向一町舎新并敷苑を創建あり是米價貴踊のとれ

或ハ不時の災害の初儀民を救ふるの 河仁あり ○京師の存寄塔

庵ガ才子中沢道二東西陣東在居 龜岳久云傍 江戸ありて黄場町ある医師前田一貫ガ

宅よてん学せ講するが以才融流集りたる友林田相生町向の片町よ奉

前舎を建てる溝治の和と道二存及所といふ書教を編梓は後く世より

参り合ひ今相續と ○五月十五日夜九時の分大雨雹交る ○徳川御傍の後

塩濱松平豆州彦沖下郎と成る ○六月加茂縣主季奮 佃為住吉の社

前一碑せまふ 此小森林のより秘傳の事と述べて中次お云元禄七年川上西右衛門大坂登伊云

船とていふ若徒ふ船の漕りうりまを致きり賣買の高人を十組ふかちて住米の

せと正保の辰辰子ともふさうして海社をわさるに役せれるなりとありて是よりあり

○醫學館日講始る ○堺町河卷あり駝馬を見せ物といふ

八月六日大風雨小田原辺より江戸迄海辺高潮上る ○町火消纏帳編む

改白漆塗とある ○八月十七日麻布幸村氷川町新奉札出 練物未出

○八月廿日暑前より雲出海鳴り暑より大風雨明七時止む

○九月四日大嵐昨夜中より大雨南風烈く八月より強し已刻高瀬川

漸高漲りて、河を急むぐ入船町久右衛門町等子目式丁目と唱下し吉祥寺

門あり建つる町家住居の人救と在ふ一時小海一流きて以方を知らず

亦又天社損し拜殿別當亦も外流失生るの浪乃徳船橋塩濱一因り

つれ民家流失は外流方家屋吹損し川も溢る晝時ふりり漸引く関

東の筋とて洪水あり 誠云蟹陸へき遠くは津浪の 兆といは時既ふよりとあり

計りがくく西へ入船町限東の吉祥寺門ありなる迄九長式百八十五万餘の

家屋せ取るとい晶地あり 此内西のくく入船町限の 諸に成葉葉裁付場とあり

○九月十三日能人真秋彦

白旗卒

五十二才居川
海晏寺小葬儀

○九月廿七日儒師松田拙齋卒

名長茶麻布
大生寺に葬む

○神田明神祭祓禊年より沖産あま也一始り

東和より軽業あまの儀文化
年中より踊りあはせり

三組と成る

年番を勤む一十本より一十本より成りし一
後年以後お超えててあまの踊祭物もあは

○十二月九日回向院一舎せられ永代

ちふおひく湯湯流死の者施餓鬼修治あり

深川側傍名物の籠をば九月言枝の
後年廿日廿日可改む

○十二月□日下谷火事

深川側傍名物の籠をば九月言枝の
後年廿日廿日可改む

寛政四年壬子

二月間

二月初午の日芝日比谷稻荷祭祓禊子町より出り徳物を出次

○二月六日詩人安達文仲卒

名格号法海三の痛
志守り小葬儀

○四月の頃より米價

○五月十四日新井白蛾卒

六才才林謙吉と云
易樹小名あり

○護國寺にて秋父三十四番

親世音園帳

神田小園トされと此處を
お枝木町外下よりお寺し
これあり

○六月餅鳥在安側一町舎所敷地を建てる是迄の大的場あり

○六月十八日亥刻光物西南より東北へ飛大さ釜のおと

梅後家の梅舊根焼失はる

○七月廿一日南大風已上刻麻布并橋より出火社土合井谷赤坂青山比谷

合遠麴町番町飯田町小石川河門小川町三橋稻荷の社辺延焼亡

此後番町麴町の裏より火除の地出果

○牛込津島坂道西側の山下

何某屋邸あり空餘に植木石庭をて在り

○八月十二日画人松林山人卒

○西本願寺冲堂再建

○谷中感應寺

○十一月七日儒師千葉芸園卒

○十二月八日

浮世繪師橋川春章卒

名言之稱後名
千葉木橋探り小葬儀

名言之稱後名
千葉木橋探り小葬儀

名言之稱後名
千葉木橋探り小葬儀

名言之稱後名
千葉木橋探り小葬儀

○十二月十八日下総八幡宮社内塔の古樹を堀穿り小古鏡をえり之三尺
深り三尺二寸元亨元年西十二月十七日別當如田と彫る

寛政五年癸丑

正月関東地震○麹町若木寺去年火除の為地を石よりれ神樂坂小代地を
ぬりけるが今年二月善法成就して廿七日毘沙門天^{せんざ}座あり○二月浅草寺
奥山ふさび杉枝株を栽る○三月六日より茅場町茶師境内を七房洲^{かみ}鏡
浦西行寺西行法師像開帳○橋場神明宮内天満宮開帳○五月より
九月廿二日江戸霖雨大川出水○五月廿日書家荒木吳江卒 号平水丸山
長寿小菖花
○九月先達て魯西亞^{おろしや}漂流して帰朝せし伊勢白子の船^{せんざう}取幸太史磯吉江
戸^へ来り 天保二年十二月強風沖を經風小速ひ漂流せしといふ取幸は今年廿八日一か内船の儀
程あり取幸より幸太史は今年西十二月飯田町の沖某園中ありて後若妻を傷たりと記す
○十月廿五日湯島松平雲外度別館より出火祇田急奉町石町堺町

幕屋町芝居日本橋辺追焚焼す○十二月柳系土手下町急の内頂田町
二丁目小柳町平永町北側を取拂り是外祇田小代地を賜り明地^{あけち}中
成後小叔藏を建らる 町舎新叔藏の
速坊あり ○月日儒師原敬仲卒 名恭胤雙桂の二
男あり又雙桂名ハ
瑜号尚庵昭和四年九月廿日卒しとも小約近吉祥寺中
門泉寺小菖花前小漏せし表くふあり

同 六年甲寅 十一月間

正月十日未申刻麹町五丁目秋田徳何某といふ酒屋より出火烈風より
山五所社水田馬場霞が関虎河内外橋田辺焚度藩邸救宇於焼幸橋
河門焼巻宿下日蔭町新橋芝新瑞座仙臺會津家小一田焼亡せり
○正月廿日金羅卒 字佛正堂
小菖花 ○二月廿八日儒師吉田不方卒 根
岩
○三月幸橋河門外兼房町和泉町飯沼町備前町伏見町若石
場町町久保町太左衛門町小の内火除の為町家を取拂ひ思地とせしれ

當時の所を以武家地として在りて外(後)されて氏所(代地)せり

○川口善光寺如來開帳糸清羣集(七)川の渡(船)渡り怪家(人)あり

○四月二日亥半刻吉原江戸町或丁目より出火一廓焼亡(仮)宅田町聖天町山の者(死)町あり

○四月十七日青山梅窓院主蕃山和尚寂(詩)及(ひ)せ

○四月廿七日儒師菅野子德卒(名)義直(山)本妙(小)葉

○六月十日儒師街里辛卒(名)義直(山)本妙(小)葉

○八月十九日國学者林湍島卒(林)和助(号)林居士(備)隨院(小)葉(男)と(名)枝(と)し(小)文化(辛)卒

○秋(辛)所(二)の橋溝(に)内(匠)製送(て)橋(杭)を(七)掛(る)衣(奇)巧(あり)

○十月晦日舟人伊藤松軒卒(号)倚(松)庵(青山)梅窓院(小)葉

○十一月三日刻大地震(十一月四日刻藏六居士卒(号)新(云)山(小)葉)

○十二月廿九日狩野永徳高信卒(号)巡(折)所(七)定(む)菜(子)花(あり)

○四(社)地名(録)写(本)成(出)羽(園)より(大)童(山)文(又)郎(出)十一(才)肥(満)七(廿)二(費)目(乃)り(角)力(七)取(一)が(年)

長(と)て(弱)く(あ)れ(り) 當(道)大(記)録(成)写(本)再(一)目(并)又(天)社(後)浮(島)源(花)若

寛政七年乙卯

正月九日谷風棍(助)終(百)才(才)仙(屋)葉(以)記(成)也(具)與(あり)一(角)力(充)あり

○二月十日西(小)大(凡)市(谷)折(丁)より(出)火(野)焼(多)り

○二月十三日書家細井竹園卒(名)庸(林)汝(并)葉(八)十(才)あり(茂)葉(若)也(小)葉(以)

○三月十八日より二十日浅草寺観世音開帳風雷雨(門)再(建)成(る)二月十日(二)社(を)安(重)以

○六月七日儒師清水江(志)卒(名)義直(山)本妙(小)葉

○六月十五日夜(大)雷(廿)七(才)不(一)落(る)と(云)○七月八日儒師市川雀鳴卒(名)匡(稱)美(門)六(才)あり(西)隆(光)也(小)葉(以)

○七月十三日星月(を)費(く)○八月七日梅柳軒(重)明(卒) (名)義直(山)本妙(小)葉

○八月十日音津川八幡宮(を)新(修)成(る)子(町)と(り) (師)の(門)人(あり)と(和)名(小)名(あり)壽(七)十三(谷)中(天)王(寺)中(了)院(小)葉(以)

○九月十日儒師三浦瓶(山)卒(名)衛(貞)務(在)去(傍)中(の)也(徳)也(小)葉(以)男(を)具(山)と(り)小(出)練(物)也(と)也

○九月十日儒師三浦瓶(山)卒(名)衛(貞)務(在)去(傍)中(の)也(徳)也(小)葉(以)男(を)具(山)と(り)小(出)練(物)也(と)也

○九月廿一日青山久保町熊野(権)現(宗)礼(産)子(秋)凶(化)米(穀)價(登)揚(以)

町より出し、練物を出せ。○十月十二日太田大洲卒 七十才名、徳元中、新法を以て、
本業ありて、死する

寛政八年丙辰

正月、白牛酪賣弘の事を命じ、享保中、房州嶺岡、白牛を放養せしめて、白牛酪
製法を命ぜらるるに、僅小三頭あり、其時、代はよ
と七十餘頭あり、依て、授餅の乾酪を製せしめて、賣り、世人を救ひ、
此を寛政五年、五月、桃井源、白牛酪考一卷を撰、梓みたり。

○二月、谷中、感應寺、毘沙門天開帳。○夏、矢口、新田、明神、其時、
芝泉岳、

秋、八相、曼荼羅、開帳、義士の遺物を見せしむ。○四月、十二日、狂哥、師、素、楊、菴

先卒 格、寄、宇、右、橋、門、約、辺、
瑞、春、寺、小、菴、以、

○六月、九日、有、越、明、神、系、礼、神、樂、を、演、出、し、練、り、の

お、か、し、り、其、後、中、絶、す。○六月、十日、書、家、澤、田、東、江、卒 六十才、
山、人、稱、文、三、郎、の、小、菴、

○九月、卒、新、小、古、納、吟、立、不、建、つ。○十月、四日、枕、汗、軒、こ、せ、ん、
名、貞、雄、為、卒、

○十一月、琉、球、木、末、碑、正、使、大、宜、見、五、子、
八、十、日、

○十二月、六日、儒、師、黒、沢、維、岡、卒 名、萬、新、
格、右、仲、

副使、安村、親、方 柴、野、彦、備、流、殊、令、
草、法、結、答、あり、

同 九年丁巳 七月

二月、廿八日、特、野、洞、春、卒 名、長、信、上、世、
渡、小、院、小、菴、

の、為、舟、才、矢、開、帳、江、戸、より、請、入、り、○四月、廿七日、画、人、
二、輪、花、信、舟、卒、
在、業、

杜、丹、芍、薬、小、菴、を、嘆、く、○六月、三日、狂、哥、師、
并、小、菴、作、者、の、

唐、九、卒 若、原、重、三、郎、と、云、給、
山、谷、正、法、寺、小、菴、以、

○七月、六日、大、雷、所、小、落、り、○七月、十日、
中、村、佛、庵、景、連、
書、を、著、す、

矢、満、宮、の、本、像、を、均、て、享、和、元、年、深、川、○七月、廿日、
吉、雲、若、真、野、是、菴、卒、
名、安、通、七、郎、六、十、才、
翻、町、の、信、寺、小、菴、以、

人、の、頭、取、を、命、ぜ、り、○十月、廿二日、
若、堂、家、法、後、郎、向、依、久、
野、所、の、本、あり、

○十月、廿二日、若、堂、家、法、後、郎、向、依、久、野、所、の、本、あり、

○十月、廿二日、若、堂、家、法、後、郎、向、依、久、野、所、の、本、あり、

○十月、廿二日、若、堂、家、法、後、郎、向、依、久、野、所、の、本、あり、

○十月、廿二日、若、堂、家、法、後、郎、向、依、久、野、所、の、本、あり、

○十月、廿二日、若、堂、家、法、後、郎、向、依、久、野、所、の、本、あり、

○十月、廿二日、若、堂、家、法、後、郎、向、依、久、野、所、の、本、あり、

○十月、廿二日、若、堂、家、法、後、郎、向、依、久、野、所、の、本、あり、

○十月、廿二日、若、堂、家、法、後、郎、向、依、久、野、所、の、本、あり、

○十月、廿二日、若、堂、家、法、後、郎、向、依、久、野、所、の、本、あり、

○十月、廿二日、若、堂、家、法、後、郎、向、依、久、野、所、の、本、あり、

○十月、廿二日、若、堂、家、法、後、郎、向、依、久、野、所、の、本、あり、

より山火業砥堀の辺より大川を越深川の宮堀八名川所へ飛海辺新田本
場迄燒亡○十一月廿二日武留吉賣若林系香山卒 名長俊梯一等奉天守中
了俊子系

○十二月十八日醫師宇田川玄隨卒 名清号櫻園遊藝者中
妻院系藤男と玄真と云 ○十二月廿二日他人

妍富津富卒 年七十八今戸
妻甚多事業 ○東海道名所圖會六冊梓行 林里系藤高著
名家合画

○和漢年契一卷梓行 枋州の人高親著太本小本二部あり又寛政十二年枋州の
人小て惠光子編和漢年代肇要二巻を梓行す

寛政十年戊午

改曆頒行寛政曆と号○二月十九日佛人小菅宝馬卒 一日ふ五日身終り
年堂と号七十二年

○四月金剛寺六森英秀卒 年九十八
号海歌 ○五月朔日忍川沖より鯨

上り長九尺を差大舌を差大餘あり 或以何日のものか号あや名彌如來子小園崎あり
枋境内の上ふ乳巻を以て大佛の像を造り桐油

○六月廿二日商人梅里山人卒 名西洲五郎あり
中の名成給る事業 ○七月より深川新大橋

の向ふ新橋を建てる此所の所家牛込音町の辺より代地をりあふ
今乃半込岩戸町之○九月一日儒師若田望暎卒 年八十八
号大樽も小
甚以

○九月十一日狩野永賢泰信卒 年九十八
号故月巻
西の於小甚以

○十月廿九日初夜より星多き飛んて夜半より小重りて空の氣

毛一面ふ雲の隠るう如く見えし之○十一月二日花星の飛るる如く

○儒師岳麻谷卒 名之浩稱若井業茂
七十二才月日不詳 ○十二月十日狂言師末樂常河卒 年八十二
号山崎

名女半込千鶴町左位者若井も小甚以
辞世 執事の如く婆家も終るる若井の權左村の月

同十一年己未

正月廿九日三河町より山火神田辺町迄燒亡以後鎌倉河峯
町迄十間通り鎌倉に成る同河峯村還慶なる○二月十五日三圍稻

新開地 奉納造り物もたつ日本橋白木橋より又書紙にて造る牛馬本賣の末偶を
ぬむ開地の所物もたつてつくりの始あり奉納造りもたつて

○聖堂所再建境内廣く之丈度落以 ○湯島風閣湯島山修驗 青山
 久保町移る湯島 小阿し 龜有町糺町 一代地をありしも 以時あり
 ○三月後行者千百年忌勅して神妻之井の号を揚る ○靈岸島埋立
 地小暇夷地産物 命所建 ○夏寺村法泉寺若くは 勅之園帳
 ○六月四日より谷系村務間 長命寺勅言所 小阿護本 の福人の面ふ 影さ あり
 見物多し ○七月六日夜大雷子刻方丈雷降 ○六月十九日儒師佐久
 文示卒名維章 善山 出處も小華也 ○八月青山海苑寺檀家和泉孫持右衛門の家
 小一丘丘尼阿り 刑は 罪の 首級六百 を得るき 當寺小華供養の塚を建る
 ○十一月十九日夜ハツ時より 又雨大雷お ちるし 一落る
 寛政十二年庚申 四月閏
 二月廿六日夜谷中いろは茶屋より出火近邊寺院多く焼る

○二月廿三日亥半刻回圃施泉寺町より出火吉原京町飛廓 中焼亡後宅
 聖天町山之宿丸町 ○七月朔日より護國寺より後 又三十四番 觀世音園帳
 新巻越山谷町横山町
 ○四月廿九日關其寧卒六十八才 稱深哉男 恭の養子也 小日向 稱名も小華也 ○閏四月七日俳人山内
 花縣卒六十五才 妻秋女と号 彌町人 稱も小華也 ○五月十一日官儒服部栗秋卒五十五才 名保命 稱若菜
 ○銀座常是報恩町より蛸壳町移る ○九月十日噴くし 以湖出市十郎
 死谷中 蛸壳 古小華也 ○十月六日金雕二菊因氏祖先行卒卒 ○十月廿廿書家依久方東川
 卒名茂之 卒 不 法恩も小華 ○十二月廿七日書家稻葉華漢卒五十九才 後葉 西福も小華 ○江戸往古圖説成
 写本大橋 ○今年富士山女人 の来訪あり ○浮世繪類考成写本一卷山内 東傳
 方長著 著毎々邦教追考せ たりし 又武多三る 出入の本を 以漢英英泉増補して 三巻と 成す 浮世繪の文様又高橋英一紫宮川 長喜末 成始祖と 江戸名人多し又 天明寛政の江戸
 剛人刷人の上の 出る 巧を 一次 中に 小英華 の物出来 て方抄の才一 となり 稱も 小華也 小華
 色も 江戸小華也

此年間に記事

寛政享和の以茲毎政美多く画き又此舟も續ひて画りり文化ふりり
奇川國長豊久以伎小工風を以て教多く画き出せり其持今よりり
年々樹出せり○人物を戦山水を解系象を四角に画くの哉も行り
書翰角を新色摺り
南より寛政の事より
世にさあり○寛政十一年の事より王子村料理海老や扇屋
或は多しと政和安永の以り世上風俗の淑悪男女の情態を以て童児の
大いせられ初推のむが政和安永の以り世上風俗の淑悪男女の情態を以て童児の
是を愛せりめ勤懲と旨とて多く他よりその内善惡玉のさす一珠もはれり

享和元年辛酉 二月五日改元

正月十四日俳人椋茶菴平山梅人卒 大久保泉福 ち小暮次 ○正月十八日画人小山寒巖

卒 名孟照 楊坊 法源と小暮次 ○二月二日茶人千柄菊且卒 西河菴町の坊にあり 深川法禪と中津院と小暮 ○二月十七日一

流劍術師中西忠太卒 根岸長性ち小暮次 又傳碑文小記せり ○二月十八日より十九日の若浅

草子親世音閣帳○龜戸天海宮閣帳○目黒不動宮閣帳○二月より

深川法禪寺より武州熊谷寺孫院如來蓮生像小屏帳○九月四日大雷石

と落り○五月十日日官医家紀永壽院元徳卒 七十六名元惠年藍候 平塚城官ち小暮次

○六月十二日板橋扇板橋水車の下より奇魚を獲りり長五尺一寸横二尺

守四尺有り僅小三寸餘巨口微目少て惣身色栗のこりり黒斑あり

○六月十六日より回向院より孫家法源寺新迹如來閣帳○六月廿九日儒

師細井半洲卒 半洲名植民号を泉林高と号す 法華寺明主岳院と号す ○九月十八日画人蘭舟森文祥

卒 小越のく法華寺に於ち中坊法ち小暮を 男を蘭舟父と云医師あり ○九月十八日金雕工岩本昆寛卒 五十八才 森と号す

○孝義孫半卷板仍 學問所所板仍 ○十月十九日夜元版田町焼亡

○十一月廿九日夜神田蠟燭町より出火十四町焼焼す

同 二年壬戌

二月廿五日菱神九百年所忌○籠町平河天海宮閣帳○二月廿八日より栢木

村田馬車師如兼開帳○二月より四月に至り以邪流の徒民(古)救米法を下(古)あふ俗お七風と云八百を七の小屋と云り云之○三月八日より木下川某師如兼開帳

○月十日より根津社地お在(古)の上野尾天神開帳○月十五日より同社地天

馬車師如兼開帳○三月廿日釜間巨山卒乃場橋の例に任せり小川被差門人半山又才等ありて

○四月朔日より渋谷金五八幡宮開帳○五月十八日富

本延壽(古)世死中の名成格お小蘇以○五月本の元才莊(古)より人焼修を再興(古)余席と

設焼修へらひは死修を焼く画く多濃流自立中て才成りて画く昔ありけり○五月本(古)の元才莊(古)より人焼修を再興(古)余席と

設焼修へらひは死修を焼く画く多濃流自立中て才成りて画く昔ありけり○五月本(古)の元才莊(古)より人焼修を再興(古)余席と

設焼修へらひは死修を焼く画く多濃流自立中て才成りて画く昔ありけり○五月本(古)の元才莊(古)より人焼修を再興(古)余席と

設焼修へらひは死修を焼く画く多濃流自立中て才成りて画く昔ありけり○五月本(古)の元才莊(古)より人焼修を再興(古)余席と

設焼修へらひは死修を焼く画く多濃流自立中て才成りて画く昔ありけり○五月本(古)の元才莊(古)より人焼修を再興(古)余席と

設焼修へらひは死修を焼く画く多濃流自立中て才成りて画く昔ありけり○五月本(古)の元才莊(古)より人焼修を再興(古)余席と

○七月十八日粗高師唐衣橋海卒七十才林小島師助○七月廿二日画工董九如石津寺小蘇以

卒早廣川居士法華○八月十二日儒師高原子行卒名流林八

○九月廿四日小石川志山権現齋親齋子町(古)出(古)練物出(古)止(古)

○十一月十九日夜古時色(古)牛辺(古)焼亡○十二月五日深夜(古)駒込(古)出(古)火(古)夜(古)明(古)不(古)出

○十二月十日根津門(古)前(古)屋(古)屋(古)焼亡○賊(古)の(古)手(古)成(古)成写本一冊蘇山某の筆記也近事

寛延(古)以(古)某(古)江(古)戸(古)の(古)風(古)俗(古)を(古)考(古)へ(古)り(古)て(古)其(古)法(古)あり(古)考(古)末(古)と(古)考(古)あり(古)云(古)ふ(古)あり(古)猶(古)の(古)緒(古)を(古)考(古)へ(古)り(古)て(古)其(古)法(古)あり(古)考(古)末(古)と(古)考(古)あり(古)云(古)ふ(古)あり

享和三年癸亥 正月間

○正月八日攝州東生郡九条村より白雉(古)を(古)献(古)以(古)○二月儒師岳東海卒百九才

○三月四日暮六時(古)区(古)大地震○三月より浅草五泉寺(古)で(古)わ(古)り(古)星(古)降(古)山(古)妙(古)純名融称

○三月四日暮六時(古)区(古)大地震○三月より浅草五泉寺(古)で(古)わ(古)り(古)星(古)降(古)山(古)妙(古)純名融称

○三月四日暮六時(古)区(古)大地震○三月より浅草五泉寺(古)で(古)わ(古)り(古)星(古)降(古)山(古)妙(古)純名融称

○三月四日暮六時(古)区(古)大地震○三月より浅草五泉寺(古)で(古)わ(古)り(古)星(古)降(古)山(古)妙(古)純名融称

浅草寺中梅園院より相馬大山麓林泉寺子安親世寺開帳 ○六月朔日より
田向院より鶴木光昭寺雷雷親世寺開帳 ○同日より浅草寺傳法院より信州
善光寺如來開帳 ○月十日より卅日の間本所一目辨才天開帳

○六月十日公学老中澤道二卒 七十九才 深川権江 妙壽寺中妻氏 ○六月廿九日國学老大家

嘉樹卒 梅一斎右衛門号嘉樹七十五才 浅草本寺中妻氏 ○清人水原左葉卒 八十三才 名伴具孫才也 美濃中妻氏 深草本寺中妻氏

○七月高嵩漢信宣撰の圖を画く浅草親善堂の外障小掲く

○七月朔日より浅草寺中金毘院より相馬大圓寺新迹如來開帳

○同日より永代寺より常陸國羽波大杉大明神開帳 ○七月より本所於

りて水戸磐船殿入り如信上人像開帳宝物多し ○七月朔日より浅草

寺内正福院より越後頸城郡尾花社大國主像開帳 宗長菴日の丸の 名馬を御せしむ

○八月折原堤の例小紙藏を建らふ ○八月谷中延命院住持日蓮傍律

や祀一巖科小處せられとせえし ○十月朔日伊豆大島燒二日の戸中

灰降 ○十二月挿花の御笠舟亦乱る卒 八十才 翌年七月門下浅草奥山(碑せり 子老大人の文あり)

○後の昔物能成写本裏 てんたのおりち西条按江のぬし(書て 送つる浅草之室曆以来の用巻をまつり) ○今年二月中旬より

浅草圓立花廣所下藩然寺太郎稻荷社利生所よりありし江戶

毎所在の老若各情羣集する可駭 遊り羣集するを後述 朔日十五廿日午の日開門之 聖文化元年ふ

いり経警司一奉佛物山の如く道路より酒肆茶店を列べて賑ひしが一

年ありし自然止むり 是時の景紙一枚繪小唄の奉向ありし文化元年抱一又 画今の時「繪せむ」を以てしるる由太郎さるる馬橋さるる

○群書類從板抄六百三十六卷 稿檢校輯板あり 此節より進み上不成

此年間の紀事

小金井村の梅寛政の以て誦する人もありし由古松軒が四村地名録に記
しりし享和の以てり 證人筆容を多く集むる毎集遊覧の如くあれり

乃其父の冊子一枚
多く刊行せり

五く流るる己の河系うさく流の雲中や水のひきまわ 千巻

○養老集は今流る ○山東系傳曲直馬琴が漢本系双帝はれり

教篇を捧行す又系大板より画入漢本新化何ぞ捧行して江戸下せり

江條江戸戯作者の式亭三馬六樹園辰盛小枝の教 絳山翁又... 感和亭系武

十返舎一九振筆亭 漢海樓馬馬高井紫山 山東京山 百樹 芍葉亭長根

柳多程多 若里谷 神屋蓬州 南仙笑楚滿人 東里山人 東西茶

南北 其外多 系大板作者の要致を多思卯 合浦免月 優々彼 柳浪 文麈 木の細色

合川波和 松好麻守 吉清 吉川豊秀 速水集 晩秋 未だ行程あり 吉屋 未だ画入り

仕組むる仍 江戸浮世繪師の葛飾北辰辰改 始春前宗理群る多 歌川豊園

公豊廣 蹄母小馬 雷剛 葉画を 盈叔北辰 関く樓小嵩 後折 小秀 海繪

葵岡北溪 ○北尾蕙 畝畧画式と号し 浮世繪の畧画を工せし 粉色摺

の粉本 教篇を捧行す ○浮世繪師二代 鈴木喜信といひ 其の長崎小島り

蘭画を学び 以後江戸小島り世より名を司馬江漢と改む 又新板を日本

小葉剣せるも世人の功之 ○江戸遠山水の遠系を画す一枚繪を ○享和系東京傳の編る

近世奇祿考 骨董集 二部の隨筆 世に流れ たり 此神裁よりあり

戯作者各隨筆を何れも其事始まり 捲れとも系傳の他小並ふり 然る

野鄙ありの多し ○原舟月 雛人形の製を改て 古今雛と名づけ世より

とあり ○享和中あやねも人葉嶋といふ人 寺島村小巻園を設け 四時

の花を載し 遊賞の所とあり 奥州の人あり 林小平 江戸小島り世より

天保の始終り 葉嶋始或人名つけて 屏風といふ 文字をいそぐく改りたり 江戸小島り世より

時の子 ねも引るも流るる多し 其は流るるをいそぐく改りたり 江戸小島り世より

うきものついでに... 集海

... 白

或人の採ふ此池の舊名を多変... 白

○北澤手拭... 白

質物の拵并を製... 白

矢利の如く... 白

顛童子を鬼... 白

鏡と... 白

... 白

... 白

料理... 文化元年甲子 二月十九日改元

文化元年甲子 二月十九日改元

二月四日より... 二月十七日昼は

西南より... 二月十九日

日より... 四月十三日

画人北本堂の例... 四月十五日

○三月十五日... 四月廿日

院大日如來開帳... 八十二年

妻... 八十二年

三日の男十一代... 八十二年

○六月朔日夕七時... 七女

中(卷上)翌日死

○八月四日佛人素健卒

三十九才 佛川 去信ちお葬

○八月廿二日画人高嵩

谷卒

七十九才名一雄号房翁

○八月廿五日玄々一卒

六十九才 佛徒を好し 奇人彼の編あり 谷中名高嵩

○浅草敷の内南部駒の市毎年行りし當年より止む是より後ハ所願主

藩内(若以)○十一月廿二日画工佐服雪雲卒

名貫多称倉次号中岳堂 雪雲 世系中村名隆不葬以女に嫁之

号とも小画 ○今年諸國考熱之

文化二年乙丑 八月回

二月十五日より根津権現卒比十一面觀世音開帳 ○三月八日より谷中一

宗寺祖師開帳 ○同日より龜戸香取社境内より系於西鴨清涼山金

毘羅権現開帳 ○八月十二日より回向院より青山若光寺如來開帳

○八月廿二日より水代寺より玉川町神開帳 ○八月廿八日より龜戸東覺寺不動

尊開帳 ○二月芝神宮境内より勸進角力あり時八月十六日八日自内行

日水引といふ角力取給の若と喧嘩不及四ッ車一人加勢しと大勢せおそ

あし開帳あしなるふ ○三月中旬より高野芝居機安あし出産の女あり

芝居主これ告北とて祝ふと云 ○四月廿日今南赤川海雲寺千解荒神

開帳 ○五月佛師神田菴小知兩國橋畔の柏戸小龍を八十八齡の賀進を供

仙ハ沆瀣朝霞の氣を吸く長壽一我ら

有 雲や吾養ひの生を花 小知

○六月七月ある ○六月十九日生妻村辺の川若湯ありし時人骨

出るる駭し是古戦場の存ありしと云 の菩提なるは枯骨を

浅草華籠寺(収め墓を築し)と云然成就と云より云ふじて七月より

系備群集以る事駭く 三月よりありし 系法自ら止り ○八月七日篆刻家島冨辭卒 本不佐 島冨辭

○八月廿七日儒師神谷東溪卒 名謙 神谷 田南寺能く不葬 ○十月十七日書画師

定河津定迪年

此の如き事不詳以年母の人より其屋敷不
含客より一人あり跡餘小録の編あり

○十一月深川二十三

間堂再建

翌年宮の二月
新始あり

○本曾法乃名所圖令持行

秋里藪尚其
為村中画

○十二月廿廿画人井川雪下園卒

名員松原三清坂本也老より
葬以

文化三年丙寅

三月より永代より成田不動寺開帳 ○同月より護国寺より河内の本
葛井寺 十画
千子 親世寺開帳 ○三月三日江戸火西南より東北一飛入

○三月四日登九ツ時芝草町より火坤烈風より言福田町の通る三
田薩呂家以迄浦本芝田金校 傍上ちハ
巽隅斗 神明宮兼門外宇田川町通る

左右出雲町竹川町通教寺屋橋河内内外本橋町三十号焼杉本所系橋
より日本橋迄左右四丁位より日本橋小の縁廣より常盤橋迄月外堂所
本町通り西の縁倉町より三河町稚子所杉本町筋遠徳隣連東の堀留

町新堂物町新杉本町より堀所葺屋町并芝居為座ハ跡より下を
富沢町橋町辺横山町馬喰町辺神田川を越る為依久町杉本町
和泉橋以迄士町通り三味線極廣徳寺前も町通りより本所筋より東通
近東ハ浅草河内外より新堀通り元を越東本筋より若徳寺の辺迄焼亡
此等小色されざる武家町家一字も跡も事あり翌六日の昼は時ふのり
て漸く燃え上り此時大馬路敷焼九若武里半幅平均七半備廣藩邸八十三号
与院六十石笠寺名河内神社二十餘ヶ所町敷五百二十余町と吹ゆ又
焼死溺死千二百餘人といひ火火小阿ひく賊民正救の小屋十五並不人
建くあふ小憩いしめ食物を給る此余の貧民も米錢をあさる 此最途中
小又掛を
以て盲人或は物りしを賣るもの有り又盜賊移れみ物を依徒來の人を傷ふ
此火災の時難説曳尾居の家衣ふとらくある也

○四月十四日五日六日の三夜三日田向院より火焼死の警供養の事を

令せらる。○四月朔日儒師吉屋昔陽卒 名高孫十二年七十三

○辯秀堂何某弁天を信し金光明最勝王經を書寫し清淨の地へ

納んてて上へ慈き石を求ふとて、たゞて龜の形し一方石を給り

堅二天 中野堂 江の橋一を納り ○四月廿八日算術師小川秀藏算易卒 泉子小

○七月大師河原弘法大師開帳 ○十一月琉球人來聘 二使 續谷山王子

副使小孫親方 琉球人比嘉親雲上十二月二日終れり 本年園東より、寒き翌日、雲

此親を上げ老年を終りしといふ言傳 又小満の彼國人の南方暖きの所へ行れり といふ言傳

大山より、柔道の時のつゝありといふ言傳 ○十一月十三日夜五時草屋町海峯 友九弟

より出火し、燬那より町大坂町志左衛門町野波町橋野町近焼る

○大坂新町の石燈臺志左衛門 お座芝居焼る といふ言傳

ぬれり、この翌文化四年法橋周南とて、其圖を画し、お座の又掲ぐ その圖見

○今年米穀豐饒とて價下落とよつて十月市中分限不應トて

買直を命ぜらる。○十月十三日儒師九尾権左衛門卒 名利通牛込東町

○十一月十四日儒師崎允明卒 号然園孫十六 ○十月の以より菅原河每書

画展覽の會とて、信以意款を添し、秘く鑑定を小紙小記し、筒ふこめて

後小切とて、○江戸圖副說写本成 大橋方長著

文化四年丁卯

二月十四日明六歳の東より、苑(光物飛ふ) ○春雨少く、梨風の月多く、お

火るなり ○二月廿八日より、回向院とて、章子ふ、勅院不勅号、閑帳 廿二日江戸、到るの

りの、賊給錫杖法螺の歌を、持前、驅る、幸九千人計り、次ふ山伏、改十人、樂巾、篠掛、とて、二行、列

以、次ふ、大なる、芥を、捲る、山伏、廿人計り、法螺を、吹く、次ふ山伏、八人、厨子、鉢室、とて、其、後、は、任

職、藝、お、兼、り、任、達、乃、ち、打、拍、を、持、せ、供、舟、の、山、伏、大、勢、中、の、異、形、の、出、立、す、る、も、何、り、近、來、是、極

多、く、江戸、久、の、閑、帳、を、去、年、の、琉、球、人、の、形、列、より、八、珠、お、ち、き、傳、り、と、云、あり、又、閑、帳、始、り、て、大、儀、奉、り、

号、し、又、其、の、内、小、火、を、起、し、山、伏、大、勢、梨、火、の、上、を、ま、ま、是、と、て、後、り、仍、弟、代、末、の、事、と、て、見、物

群、集、し、燒、内、混、雜、し、て、怪、象、人、の、何、り、程、を、以、事、と、し、れ、り、と、す、

二月四日
芝目
出火
脇坂
河原
新橋
この町
町火消
の大喧
嘩あり

武江年表卷之七

○二月の頃より品川宿橋向方 痔屋何某といつる驛舎の抱版盛女今廿廿歳

りとりふた衣類対丈つんち 六尺七寸容色さくし 珍めづしきものにて遊客多く世家日夜

驚異せり 後二年にて廢れ言ひ己の妻あり花袋渡船と改め後葎折橋着の向大女のカサと

書物ありしりふたあま 号一箱物あり其藍をいり襦袢の打を消しは斗儀一華をいり肩に文をい

如未文覚の係閑帳英同さくちく宮根山権現みやね開帳 ○三月九日鼓作若事仙矢

楚満人卒 楚の先院 ○三月十日より大塚復園おつかを觀世くわんせい開帳 ○四月朔日より

湯島社地より大塚大意おつかを見耕菴ひら火防造酒地ひら菴開帳 ○同日より芝

愛宕社地より都築那折本村法島みやま神閑帳 ○四月朔日より浅草八軒

寺町大仙おほせんより下総中山法華みやま寺奥院おくいん祖師閑帳そしと共に京都きょうと頂妙ちやうめうち三

玉閑帳 ○巻裏まきうらを國格邊大川くにがら夕涼ゆりやう抄 ○六月朔日二日大和おほ金銭かねぜん傾かたむかじ

○六月廿日中平井村百姓なかつら文六ぶんろくといふりの逆井村さかの川面がわを規まを取とる

義の月不日蓮上人の像ぶにを於て平井妙光ひらち小飛こひむ ○七月十九日より深

川澤かわちちああく身延山みやま七面しちめん神閑帳 ○五月朔より猫ねこ死しる事こと駭おそし

○八月朔日より十五日あちのる涉しや多おほ親世おんな言こと并なら帳 今年法堂修被改め合紙書の前まで

○八月五日より回向院くわういんああく下谷しもや通とほ新町しんまち開通かいとほち貴金ききん親世おんな言こと并なら帳 坂邊橋尻開帳 ○永末草紙辭條

○八月六日算術師さんじゆし後田ごへ権平けんへい定資じやうし卒 号ごう権山

○八月十五日深川八幡宮ふかがわ祭まつり 隔年かふねん小法こほふ一いつけりけり十二年じふにねんよりより喧嘩けんかを休やすむ

雨天あめああく十九日じゆう不ふ延えんる同日どうじつ産子うぶこの町まちより踊りおどり遊物あそびもの未ませ出でる江戸中えどの

いふいふ及および近ちか近在ちかより見物けんぶつ出でる互たがひに時とき靈巖島りやうがんの出でるわり物もの永代橋えいだいの

東塔とうををあありし時橋上の住来すま群集ぐんしゆの次つぎ中なかより深川ふかがわの方かたより

ふりふりは三さん石いし針はりを崎崩さきぶししるるいふいふ崩ぶれれをを後ごよりあありるものもいふいふととする

事ことありし中なかより上かみより下したよりより落おちちるる氷こほり弱よわくく助すけりりし稀まれありし川下がわのあ

武江年表卷之七

七

屠とありし九子五百人勝といふは馬とまらぬ戸中一宮をて見物ふしるる
 家族の苦ん大方あり代新大橋の通路止りてあ國橋を渡り途ひこ出る
 のの昼夜引切らば 官府より厚く命せられく水中死骸を引揚し
 め男女老少を分ちて大強小積並るるを家族為子来りてあらく野邊
 送りてあはれ慈傷のよ目も何てせられぬ事ともありしこと
竊死の家族実者
 はけ殺の物ありし
この時類末夏の浮橋といつ
 差紙ふ妻く祀せりとあむ
 ○八月廿二日 九月時魚井橋辺古松大枝折る
 ○八月水川明神社造管より年何さるふ崩り○此以西の方ふ多帯
崩る
 ○帳夷地變動あり○一石橋の橋杭嫩木の様ありし一箇ふ芽を
芽
 あき雑草茂生は○九月三日酒の刻小舟より申一光り物落ふ大鞆結
 めく青とあり○九月十五日林田明社祭礼所雇系と二河町二丁目二丁目
 より子供お獲せぬ○九月廿一日青山慈野控現祭礼出練物切る

その後休む ○十月四日茶人川上不白卒 九十二才号孤峯又田歌無始不善と云十の
 如心母の門人中古千家茶の閑基あり
 各中安立寺小桑以墓不天昭元年生若小管む不中中央石地龜を並火袋小法と鴉
 と左ふ戒号せまるし方碑あり右ふ種植大尺の如きりの剣を携へ以上小巨をとりてきたる
 右像をとりぬの
 ○十一月高橋海上あき蘆原と云海獣をとり

○十二月一日官儒柴野栗山卒 七十一才号松丸補号古愚
 大塚は鹿島小葬以 ○月十六日儒師秋生鳳
 鳴卒 名天祐称恵右衛門
 三田名村小葬以 ○十二月晦日夜永田馬場火事

文化五年戊辰 六月間
 正月九日十日大雪降五十年来の雪といふ雨と相折るる ○月廿二日画人行次
 参漢卒 名惟房法名
 小葬小葬以 ○二月朔日夜大雷 ○二月十三日狩野養川院准信
 卒 又文化七年午の
 四月にも開帳あり

○奉新本佛寺魁子母林閑帳 ○三月七日画人肉田陶在卒 又對の男なり
 廣尾光林寺小葬以
 ○日墓里小位日野資枝の所寄の碑を建 今年の庄縁之常丹水産江戸川安宅の位人
 保延貞といふ人建るあり

未あつ日...の里...の...
あれ...
○四月九日...
○五月十日...
及近國...
○閏六月朔日...
上相...
を修せ...
一ける...
后...
廿日...
社用...
○七月廿五日...
七十...
永代...
八日...
○十月...
を減...
事...
○十二月...
文化六年己巳

未あつ日...の里...の...
あれ...
○四月九日...
○五月十日...
及近國...
○閏六月朔日...
上相...
を修せ...
一ける...
后...
廿日...
社用...
○七月廿五日...
七十...
永代...
八日...
○十月...
を減...
事...
○十二月...
文化六年己巳

未あつ日...の里...の...
あれ...
○四月九日...
○五月十日...
及近國...
○閏六月朔日...
上相...
を修せ...
一ける...
后...
廿日...
社用...
○七月廿五日...
七十...
永代...
八日...
○十月...
を減...
事...
○十二月...
文化六年己巳

武江年表卷之七

三十一

新杖木町堺所葺屋所為座芝居松波町寺砂町元濱町辺武家方丈
より為園茶研煙突の余跡小いより飛火して本町表町辺焼亡一夜九
半時終る○正月雨降る日刻風中て火事度あり○二月永代橋
新丈橋大川橋交員人止る菱垣且船積仲間引更不成り浪止む

○二月廿九日牛込大崎屋敷より寄番町の系追焼亡武家方丈焼亡
○二月十日八日香里妙隆寺祖師宗悋○四月より仍徳徳願寺法院如來

開帳○三月廿四日約辺田宗寺にて八百屋お七が百廿七回忌法事あり細雨降る

清草集夥一奇并ぬの巻巻集夥する所といふ○四月二日儒師保来藍田卒名無年林金藤七十八才約辺
教難岳といふ吉祥寺中洞あり小葺以男や終て暮る終て暮る○四月より七月迄江の島本宮岩屋無才天開帳あり江戸よりの

系諸縣一江戸より無才天開帳あり○五月六日儒師泉豊洲卒五十二才林齊太郎名長建
江戸より無才天開帳あり○六月六日より日向院より常州真登那能玉明社浅草光昭も小葺以

開帳○六月廿一日官医桂川南周卒九十六才名國瑞号月庵老人○六月初旬

葺加在久場村と院邊の和木様へ二本枝上りも小葺以花多々咲り江戸より見物人多く

○七月楊場林明宮の内にて武州河嶽山深麻○七月十九日より本所
本佛も亦て甲州石和遠妙も祖師開帳○七月深川宜雲も小英一

蝶の草塚を築碑を立る市野光彦文を撰一英一珪これを選る○八月廿二日夜
亥の刻より廿四日迄大風雨家屋を損る事夥く火の足の中鐘を吹落り

伊豆房徳徳人多く溺死あり○八月卜者成回朝辰鈴々森八幡宮境内
小狸塚を築く○今年諸國豊作也○九月朔日より二十日の間牛込岩

戸所南義院并才天開帳○浅草報恩寺因系所向より今の所へ移る
此所本所前の地所廣がる○九月五日詩人谷林龍谷卒八十一才名幸備孫十
浅草深空次即画人文魁の父也○九月五日儒師篠本竹堂卒名廉孫久二所
小葺以四谷寺古所榮林も小葺以

○ちりふ 稠布日記三卷字本成 右田町畠先生公用下 ○十一月三日大雪十二月近解次

文化七年 庚午

正月廿日より浅草大仏より依波塚系うねづか根草ねくさと祖師開帳 ○同廿七日物有宗

小野おの蘭山らんざん卒 八十四才三十七才五十五才内
浅草寺に葬る小茶屋 ○二月廿日より川口善光寺如来開帳

○二月廿九日より平河天満宮開帳 ○三月七日より回向院より越後國下宮より

大目如来開帳 ○同十日より浅草玉泉寺より鎌倉松葉谷長持と祖師開帳

○同十五日石系徳水寺如来開帳 ○同十三日より十九日近浅草唯念寺より同廿一日廿七日迄
溜池徳泉寺より四月朔日より七日迄浅草徳念寺より

下野高田山如来開帳 ○三月廿日以後寺より寺より津福禱祈竹本住太夫死 兼池本
新中

某院 ○四月朔日より浅草柳橋新町新開帳 ○同八日より深川清浄寺より新

曾妙そと乃寺祖師釈迦如来開帳曼荼羅を拜せむ ○五月十一日狂歌師萩野

登裏住のり卒 七十七才金吹所より住持大徳の表住といふ寺上房
藤原の号とありし深川法祥より葬 ○六月十五日より回向院より

嵯峨清凉寺釋迦如来開帳今年八例より条詣多し ○六月廿三日廿四日白

金覺きんかく林より清正公二百年忌供養開帳 ○八月朔日より護國寺より信

明座あきざ光寺村元善光寺如来開帳 別當
連光寺 ○九月十九日加菴遠塵あきざん母卒 七十七才この
病に終せむ

藤のつゝ丹書にを巻く經文を収めて佛像を画する人の職に就終母より寛政八年成就しる 五十二
羅漢木の像五十餘幅あり大徳禪師と稱を賞して他をれり文あり高き不秘秘を

○十一月十六日東本願寺淨堂再建上棟ひきあがりの式あり 文化三年冬後五年間ありて成就せり
今日善清の男女未だより羣集し

供物飾物木目と譽るる牛あり 此冬マゴロの魚漢あり事夥し総豆ねの三羽より

一日ふ一万本を獲るといへり ○十一月十七日儒師諸葛琴臺卒 名琴臺号鬚髮
下谷善玉院より葬

同 八年 辛未 二月間

舊冬より為徳より正月十日大雪十七日大雪 ○正月廿四日昼四時時より
浅草茅町二丁目裏より出火表通りついで裏河原折橋万八樓連焼九三
町ふ一町程あり早炎度く少るなり ○二月十日颯風申刻市谷谷町念佛坂

よりお坐四谷赤坂麻布西窪飯倉赤羽坊上寺支院三焼亡ハ以吳二下一

て死亡の若二百餘人と云々 ○二月十三日村田春海卒

五十六才 錦織史一本 琴後 翁 祐平 四節と云 國策 小長一 和言を

より以羣書一覽云 寛平中の新撰字鏡と購ゆ一より

○二月廿八日より牛沼前王子権現

開帳 ○閏二月十日々振津社内親世者開帳 ○月十八日より護国寺山内より

秩父北和親世者開帳 ○月晦日より牛島長命寺在才天開帳

○三月十一日より池の妙者寺に於て滋谷若本実相寺祖師開帳

○三月十六日々永代寺に於て信州戸隠明神九段権現開帳 別当 顕光寺

○四月初旬より風邪流行 「人のあり小袖の権現髪うらまへ 蜀山人

○四月朔日より回向院本寺法院未并後合又満宮開帳 ○同日々茅湯町

某師肉之新座郡次上親世者開帳 ○四月十日永代寺境内小芝居の如く雨後権

○深川仲町盤纏せん茶あんといふ人天てん智ち絨じゆりといふ物中ものぢゆうとて書狀しよくじゆう本を

造りくまはる ○四月廿六日粒宮師千種庵恒海卒

○五月十日より回向院より河及壺井八幡宮開帳 左様ありて 五十一才 孫山中 要助 号 唱和と 六音 林あり 今 孫福と 小 孫は

淺草新座正行寺より常及大増村正行寺大蛇おろち傳でん成じやう親しん善ぜん上人じゆうじん像ざう開帳

○七月十六日より栴揚神明宮内天満宮開帳 ○七月四日画人晁有輝卒

○七月廿一日儒師宿谷しゆくや卒 名 慎 林 森 冬 弁 白 泉 子 小 孫 ○八月上旬毎夜夢時小の方ちのせ帝皇ていじゆう啓

下 旬 西 小 見 之 又 境 中 亦 未 了 也 ○九月三日示川本宿新武藏しんぶさう屋やといふ縁ゆかり店たなより失火烈風あり

○十月廿八日東本寺とうほんじより法堂ほつだう若成社わかにやちや辻つじ伴ばん供くわ養やう院いん傍ばう若わかに樂らくとて多おほく以も諸人しよじん駭おど今

年とし岡山おかやま五百五十年の遠とほ也 ○十一月十六日雪ゆき六時むいじ之の南みなみ竹馬町たけうまぢやう三丁目より出で坐ま乾

風かぜ少すく中ちゆう通とほり一いつ出で河か岸ぎし一いつ焼やき枝えだ寺じ枝えだ本ほん町ちやう河か岸ぎし迄いた出で夜よ九く時じ落おちる九十二くじふに町ちやう経けい焼やき亡むし

○十二月二日書家しよけが荒木あらき適てき齋さい卒 名 勉 之 孫 大 治 丸 山 本 亦 亦 孫 ○十二月十日夜九時くじゆうじ之の淺草新座

○十二月十日夜九時之淺草新座

○十二月十日夜九時之淺草新座

○十二月十日夜九時之淺草新座

荷裏通りより出火為小風強く砂煙河越川町より三筋町を越え為福
る唯念寺焼る○河越川橋向より出火敷洲の辺に於て焼る

○江戸哥辭年代記刊行十五卷 立川馬馬作三津芝居の基立りの記録なり
今年より十二年迄迄小市行以

文化九年壬申

二月十五日より羅漢寺にて岡山念持佛河津院如來開帳○三月三日より法谷

長谷寺あり京清水寺親世寺開帳 東清影一山開帳
商人仮や新を列す ○三月五日より洲崎寺

秋天開帳○三月より池の妙音あり佐渡の谷妙照寺祖師開帳○三月十四日

より押上春慶寺善賢井開帳○高集木下川澤光寺裏の通極樹を多

く裁る○四月廿六日三島自寛卒 六十八才名景雄稱古を傳三島中より小位忠孝和方と也
又能書あり淡草新極若照寺小華以

○五月十八日より芝巻宕山より下総花寺 開帳○月十八日儒師山本

北山卒 六十一才名信有稱在六
小石川茶町中合も小華以 ○五月廿五日觀相名人石竜子法服卒○七月大水

不切あり○七月八日法如英慶和上迂化 法谷村宝泉寺小華以
廿七 ○八月廿七日

越後若市場通災終 淡草院云
も小華以 ○八月末本郡中極寺あり越後修良

寺宝物を拜せむ○九月東鴨橋井の極木屋あり葉のむを以人物を數

何れあり色々の形を造りて諸人ふるむる江戸中の中後日毎小群集

て是物よりれ年毎小成無あり九十九餘り不ふ及ふ文化十二年迄あり

又より後造物の止まり 氏時葉の昔付案内記終災終の
終ありの事終せり

○九月三日下総國相馬郡代宿百姓忠義娘と為八丈あり男子を生母子

恙あり○十一月四日八重時大地震 おと土瓦毀色用水桶の水こむる終あり
小川新茶川辺まで強家倒傾屋人あり

○十一月十七日書家田中為幸卒 五歳終
小華以 ○十一月廿二日夜五時色龍泉寺村より

出火南烈風より吉永新町へ火移り又一廓燬く焼亡り又より為水の

風小く有り田町一巻水なる乃百親有連一町の宿の辺迄焚焼一川
越々本所苗場町の辺少く焼る 吉東丁飯宅田町聖天町丸町山の宿三谷
深川ふたを不あり翌年八月元祀へうつる

○此秋有羽町二丁目三丁目何々の西の裏子ふ上水の傍りせりて焼る

ら一巻水と号以言一丈五六尺幅を写降りね左右山を作り四時の花木

を栽り例小茶店をせり往來の人乃休之所とあり又保の始より廢る

徳山より落るる徳の玉をこれくをてそるるあま月の元 蜀山人
りふそるるこも有羽のききくまてこりていふ龍の岩痕 縣鷹

○十二月十九日書家箕田牛山卒 号福夜亦 麻布宗藏も小華次
長男ね本殿吉右衛門号徳山と云 ○十二月歳

寒為國川氷あり○十二月廿九日夜五時の前桶町より出火西小引火風南傳

る町より系指竹川岩金古町迄焼亡○此以カラシ糖といふ糖のふり

賣街せり 蛇の目の故有言拘高せり菅笠をかり烟袋を背負ふ声も
カラシ下ウと叫ぶ形流るるあまの浦を由出せりふも程かく度り

文化十年癸酉 十一月間

二月二日夜九時の三河町或丁目裏通より出火一七武家方四新程三河

町二丁目三丁目皆川町永富町松下町鎌倉町新草屋町新焼夜明て右

様る○同十五日夜亥半刻下谷所成道志田豊前侯の南隅長屋より出

火烈風ふりて右川侯所長屋を吹越一丸一茶店の裏ふりて右右ふひる

り右例より仲町南例踏りて焼失池の端裏通り加倉屋長屋迄西の三枚指

向料理屋松坂屋の例東の呉服店松坂屋の例々上野町山下迄焼る

○三月より淺草より念佛堂より常舟康島志神宮不斷經所廣徳寺赤童子

園焼○三月八日より此の妙音寺ありて二の江妙縁寺祖師園焼○三月より隅田

川本母より本寺并梅若丸保園焼○三月菱垣止松横仲間十組同屋株式

定る この時の人数
千九百五十五也 ○三月廿日より大久保西向天満宮園焼○四月朔日より今

戸八幡宮園焼○五月九日より淺草寺先本覺寺祖師園焼○夏芝愛宕山

控現開帳 ○五月愛宕山別當田福寺にて長鬚會あり秋田彦の侍醫大塚
大中といふ人の撰書あり老人を集めて書画の会を催しあり

七十より八十の歳を嘆き 七十より八十の歳を嘆き

○五月廿日より廿日の若九代目森田勘弥壽程言真形 ○五月廿日狂言師手柄

岡持幸 七十九才平次氏名幸富号月成 ○夏清老女弁乞の池水車を仕掛かたを

用ずて人形を踊らせ鳴物を鳴らす見世物あり ○六月二日より回向院より

常洲筑波山麓兼登影山権現開帳 ○六月初旬より蕎麦を食へ死るといふ

俗説仍れ蕎麦登交小書ひあり ○八月八日書家大橋重雅幸 清老翁為中

○十月廿八日法橋五松宜林翁幸 存心院小書

姓とあり五松を氏と以再記ありりおむ他は位一巻を著す今年七才ありて幸江本

○十一月九日明六半時未より西方六二尺餘りの光物飛ぶ 武州生麦村の田舎中雷

一とく肉製異の ○十一月廿八日夜九時迄品川宿橋向火三所の除焼亡せり

○同月廿九日夜高砂町西側より火高風烈く電河岸一火又小風ふりり

和泉町東側より大坂町堀町葺屋町為座の芝居難波町より町家物町

稲荷堀酒井彦中より小室より翌朝六時迄焼火す ○十二月二日善六時

より花川戸町去年焼跡より家々吉妻橋際迄焼亡此後五十餘日雨雪

く日く小火あり ○十二月四日官儒尾首二洲幸 六十九才名茶榮林良女

○十二月六日書家松會平陵幸 七才三才名芳文林三四所 ○右京焼町八年次切小

ありてあり今年地盤の居宅一団以てみりより町名を唱ふ事あり

文化十一年甲戌

正月十日夕七時過ぎより俄小風吹入り雨と家屋を損傷此月初卯を龜戸
妙義社系諸群とあけけるが此暴風小家根舟楫舟舟殺艘没して人多く

死龜坂町にて侍一人空中火上二三尺 ○正月十四日善時八代洲河原より出火

○正月廿五日画工杉田龜五卒号法風被劫迎土物店 ○二月深川砂村元八幡宮

より石前四五町の石稚木の八重櫻を栽ふ毎妻遊觀多し

○二月二日より十五日の石崎弘法大師開帳 ○三月朔日より永代より成田

不動尊開帳持綱懐大抱灯米俵造り物本點りたりはりたり ○三月三日より日向

院より中總石崎村若村若村より不動尊仁王尊大丸只開帳 ○三月六日夜大雨大

雷不三踏止 ○同八日より押上法恩より永代國寺祖師大聖天聖諱女教

善法正開帳 ○三月十日書家佐野東洲卒名圓彩母 ○三月十八日十六日

の石濱支親世より開帳日より一の権現開帳 ○四月朔日より滋谷金王八幡宮開帳

○四月朔日下谷正法院稲荷明神開帳非田平永町小折所より丈九九尺計りある稻

○四月朔日下谷正法院稲荷明神開帳非田平永町小折所より丈九九尺計りある稻

舟月の門入 ○浅草山新て新を用ひて ○同日より浅草金花院子安親母言香帳

○同日より中野宝仙より不動尊開帳 ○同日四谷新宿子安親母本比十一面

親世言開帳 ○同日西新井弘法大師開帳 ○四月より七月中旬戸

及徳國大旱魃郡下門小松井を建て度 ○六月十八日百瀬流筆道の師耕

元卒長権耕雲門人あり今年七十八赤坂法あり ○七月朔日より日向院より河州

壺井八幡宮花壇開帳 ○七月系於上羽村桂姫名代何某 官許

を好く勅化の為武家所を巡行す ○七月より徳本上人小石川

傳通院より徳人小十念を授ける等機の系諸草集聯し

○秋護國寺親世音開帳系諸群 ○十月廿日夜上野所本坊火 ○十月書家

田中玉峰卒名別 ○十月より浅草より奥山一謎坊主とり小若知る

の盲坊主を座小ありてる物より継をうけさせて即夜小り若解はさる時ハり者る人小若とある

て名を喜書との八喜の重の妙 謎をゆく解くくしん是を學ひ方りの向ふも出されとこれ
あり及びありあり 翌年喜書 〇十一月七日儒師中豊豊洲卒 名辨 稱周吉 号福前 秋吉庵
〇十一月十七日佛人建於萬地卒 号福前 秋吉庵
〇十二月七日夕七時聖堂の内學問不火
彼不似する喜書の画蹟多くあり

〇墳墓圖志三卷字存成 一名秋風抄作者不詳 江戸寺人の墓碑せあり

文化十二年乙亥

正月十日より雪度之降 二月十日迄 大雪名江戸と城路の入り口 皆人毎りちみちあり 身尾居

〇三月十一日より中山法花寺奥院祖師 〇四月朔日より

廣尾天現寺毘沙門天開帳 〇同十五日より江の橋上の宮本天開帳 未修迄

〇四月日光山二百田所神忌所法會 〇六月朔日より日向院より秋父大

日向山太陽寺法會大士并修 〇六月二日抱一君尾於先琳の百年忌修らる

〇六月廿五日書家渡辺東河卒 名彰 稱交平 徳本上人傳通院本堂西小

隅小大日堂再建 今年ノ肇々朝息の異品を玩ぶる所 文政の始ニ都下の貴族

園小裁一益小後と延令を設く 中より一十年の具よりけりて也 牛ひく花のさよりむきしり 遠橋山人

〇七月朔日より日向院より甲初善光寺如來開帳 〇同十六日より下谷徳大寺

廣利支天開帳 〇七月廿一日長遠寺より中総管谷法蓮寺祖師開帳 〇八月より

淺草念仏堂より出羽國湯殿山黄金堂於竹太日如來并修 冥室お茶を寄る子此の 紐あり寄寄紐小紫編細と

〇十二月雨森牛南卒 字友名宗真一号松蔭 武藏野話刊行 不沢村 世居崔磯若

同十三年丙子 八月回

正月五日奇人安田躬隆卒 号東水 称一卷 〇二月十三日土肥鹿鳴卒 七十餘名中惟 未修易字不

〇三月三日本下川津島より茶師如來開帳 〇三月十五日日向院より同

〇三月十六日淺草トブ店長遠より鎌倉本寺より祖師并

〇八月十八日湯島社地より野島津山より地蔵菩薩開帳 〇八月より池の妙書より

祖師開帳 ○四月朔日ハ護國寺ハ相州松本親世寺開帳 ○四月廿八日ハ淺草芝草

香法養寺ハ此地ニ移立リ祖師開帳 ○初夏より壬八月迄江戸疫癘流行人多ク

死次 ○五月三日朝草谷町桐長桐重居梁 未三三折 年梁谷園年秋院の翌年菩提の死

亡切ノ梁トシテ老翁ハ芝居不登思あり一六六社の出ありわあんと人々をいひ及る芝居休の日

傍を結ニ補綴せり折ノ風も多し一六六社トシテ自裁折りて死ニ至る者あり

○五月三日申刻在東京町寺子屋ハ出火一廓焼亡 後宅田町を以て所出の病所 ○五月十七日

画人鈴木芙蓉卒 六十九年名雅一号花蓮 ○紫おとと始て後 おむとよははとも藤蓋の種取出

大風多人家を損一樹木を倒凡江戸中外出水 本寺致る淺橋倒と本寺深川の辺

○九月七日戲作若山東京傳終 若山氏名雅孫傳終 ○俳家奇人於持の 替若玄一

○九月梅振返り咲き ○九月以後小入といくとあく梅子をえり太鼓を打き

吹ゆるといふ ○九月廿二日より幸橋所門外畠地小於て親世を更 後賜 勅進能

自行あり 日教ハ勝天十五日を期とす自彰の各場中より其大とて奇事甚多 ○十一月十九日他人

不隨亦成美事 後孫井高屋八并本也 車返町蓮花寺本集以

文化十四年丁丑

正月十二日曉八時雨中新嘉物町南側より出火あり芝居焼亡若代町大坂町

志丸寺の所人形町通於焼 ○正月月中旬俳師律雲庵午心卒 此書の藤原

小形野らゝの中ハ最早死の 語乃ハ奇事といふなり ○二月九日画人金子金渡卒 元圭 ○三月朔日本所法

恩寺祖師開帳 ○月二日ハ永代寺ハ八丈塔為新明神開帳 ○月日ハ葛西花又村

親世大明神開帳 ○月三日ハ青山長光寺ハ七難波塩江津院ハ末開帳 ○同十日より

十の月浅草寺親世寺開帳 ○同日ハ浅草寺衆寺ハ初初 古天拜祖師開

帳 ○月十日ハ浅草大仙寺ハ之強明海長寺新法祖師開帳 ○青山梅窓院恭平

親世寺開帳 ○月廿五日ハ香像親世寺開帳 ○四月朔日ハ芝林町宮地内より

相公梅澤吉妻控現園地 ○同日より不忠他系天内少之上洲村田匠吉吉旭

某師如來系地 ○同日より同系鱒某師如來園地 ○四月朔日秋野崎谷谷為平

佛千社ありと号してこれを張る不徳年より前をせめて數十丈の石橋の屋根よりいへも等しく

子更以入り始り此の寛政の以より始り天保の以より始りては保正より其を結ひ解て分り始り

堂社といふも傍りありくこの札を結ひてきふのよりいへも其の草をとりて天保より其の草を

よりこれを結ふ ○四月十七日官医松田元伯卒 七十八才名顯其号鶴軒

完来卒 七十 ○五月四日官儒吉賀精里卒 六十八才名模林録か

即ち若松丞大早 ○八月九日官儒岡田寒泉卒 七十一才名松

算術の師會田算左清の安政卒 七十一才名田校平の門人之文政二年十月卒

降福瑞活十寸見沙洲死 山谷某院不詳以死後結と ○十月廿二日晴天未刻以江戸

市中雷鳴の如き響くて花の物室中を飛入 武及八王子横山霜の畑中へ落り

此年間記事

文化の始より浅き者七月十日の四方六千日糸赤き蜀黍を雷除とて高

ふり始り ○浅き者奥山に社控現の右一人磨の社を建り社辺山吹萩の敷を載

景色を造わり ○目黒村小富士山を築く ○日暮里青雲寺の布袋様巨像を

修性院へ移し ○和合社の画像を作り始り 其國人の知る所有の史記道以流来する流録の

錢隨亭高辛書系幸吉北園と有り貴人も常小本不撰られう大槻平次并 其國人の知る所有の史記道以流来する流録の

折松小和合社のより向られの流録といふ山拾得ありといひてふ 其國人の知る所有の史記道以流来する流録の

小載せり又清人將士詮う忠雅集小画和合神の詩ありて 其國人の知る所有の史記道以流来する流録の

編輯燕居雜話あり 其國人の知る所有の史記道以流来する流録の

○叶福助といふ泥塑人を作り 其國人の知る所有の史記道以流来する流録の

○江戸坂田郡國友村鉄炮船治國友藤去清能書といふ人 其國人の知る所有の史記道以流来する流録の

田大園小流り蘭人推考来る所の鉄叢中一風を籠め火薬火繩を用ず 其國人の知る所有の史記道以流来する流録の

風の勢を以て放つ鉄炮一列小形を以て加へて凝ら 其國人の知る所有の史記道以流来する流録の

く割裂し始り 其國人の知る所有の史記道以流来する流録の

○文化七八年の以て石菖蒲の異子を玩ぶ事盛なりしは、柳橋小橋、
 其後これを賞玩し、所謂三徳思意、黄金虎、銀紐、寄長生、及養老、有極川、山宗、浦島、
 雲山、虎の巻、瑞雲、霞夜、天下、天誓、織通、絲青、葉、入る、よりの名、
 ○此時代名家△儒家、山本北山、龜田鵬南、太田錦城、朝川善庵、△詩、市河
 寛齋、大窪天民、館折鴻、粟地五山、△書、輪比屋代為、中村佛庵、後田
 東河、養星池、関克明、松本竜澤、董堂敬義、中川由美、二井親孝
 △狂歌、其類、蜀山人、六樹園、文舎、蟹子丸、三院、雁法師、千首、接堅丸、純亭
 和持、琴通、舎英、賀△俳諧、林田房小知、眞妻、自然堂、風朗、不随、亦成、美八、
 國、荻、松、因喜、庵、護物、小養庵、碩嶺△画、村野、伊川、院、法、下、同、晴、川、院
 法印、同、素、川、彰、信、抱一、若、谷、文、晁、門、文、一、依、田、井、谷、英、一、陸、長、谷、川、雪、且
 鈴木南嶺、大長雲峰、春木南湖△鑄物師、村田、整、民△碑碣彫刻、窪世
 祥△金形、上戸、純、富、久△刀鍛冶、水心子、正秀、手柄、山、正、重、大、慶、在、亂。

△蒔繪師、原、更、山、羊、遊、坂、内、寛、哉△浮世繪、葛、藤、戴、斗、款、川、豊、國、月、豊、
 廣、門、國、貞、門、國、丸、啼、高、北、高、居、清、家、柳、居、辰、辰、柳、川、室、信、泉、守、
 深、川、柳、堤、守、琳、月、磨、菊、川、英、山、勝、川、春、亭、月、春、庵、長、多、川、美、丸△花形と
 いる、俗、根、の、子、乃、乃、有、る○神乃、禰、敷、菰、田、伊、勢、義、龍、久、部、日、向、乃、乃、
 ○雨、屋、取、和、年、之、小、減、り○角、能、人、八、十、島、富、五、郎、不、白、の、門、小、入、て、茶、事、を
 よう、く、根、存○根、岸、田、光、寺、庭、中、長、せ、七、る、横、田、尺、除、の、菴、極、あり、一、株、の、花、樹
 あり、文化、の、以、迄、の、盛、の、以、於、下、の、發、人、ら、小、集、ひ、し、惜、む、下、文、政、始、の、以、結
 果、なり○尾、久、村、深、山、玄、琳、とい、う、人、の、園、中、小、牡丹、救、株、を、載、置、花、の、以、
 じ、物、多、かり、し、文化、中、より、終、り○文化、の、末、大、坂、の、竹、本、津、雲、五、丈、江
 戸、小、り、標、座、小、於、て、答、れ、を、お、せ、り、
 起、以、三、笑、亭、可、樂、朝、藤、坊、安、樂、出、て、深、盛、小、乃、有、る○狂、言、橋、の、模、標、遠、州、純、

子の権掾又伊豫藤と比小藤物とある伊豫藤と云い上藤也 文化の始より是は

紙のり皇州熱海旅舎の何事此一なる名もなき 今井某これを製し始江戸中へて商りむ

○和製扇紙始城守の人朝正新我樂通林川儀右衛門といふりのうまき也一若の以て是

深川之扇橋小葉地を貫求て考りこれを製せめて世に布ふ又假十有様立百の紙を製して室業

○ギヤマンの法器物を製し始む其製扇葉の比小なるは比一なる名もなき ○琉球扇とや

了出た ○居風呂の秋炬小火を焚て湯の中金魚或ハ鯉の類を煮

して世物と云ふ國法草沖菘菜小なり

○砂村玉地稻荷社此一なる名もなき 一症瘕と患ふるもの形取て美驗を得るありて

糸指する事始る

武江年表卷之七終

